

事務局資料

(本研究会の運営について)

2026年3月10日

情報通信政策研究所調査研究部

- デジタル化が一層進展した未来社会においては、AI、ロボットなどのデジタル技術が生活の隅々まで浸透し、人間と直接にコミュニケーションを図り、人間に積極的に働きかけを行っていく関係が構築されると予想される。
- デジタル技術の進展は、便利さをもたらすと同時に、人間の意思決定や行動に影響を及ぼし、時には人間の自由を制約する要因にもなり得る。また、デジタル技術に委ねる領域が拡大することに伴い、人間のあるべき姿や役割も変化していくと考えられる。
- 本研究会では、2050年頃までの未来社会を念頭に、人間とデジタル技術の共存を通じて、人間が活躍できるウェルビーイングの高い社会を構築していくための方策について検討を行う。

検討対象

2050年頃の未来社会像

未来社会

人間に求められる能力

人間

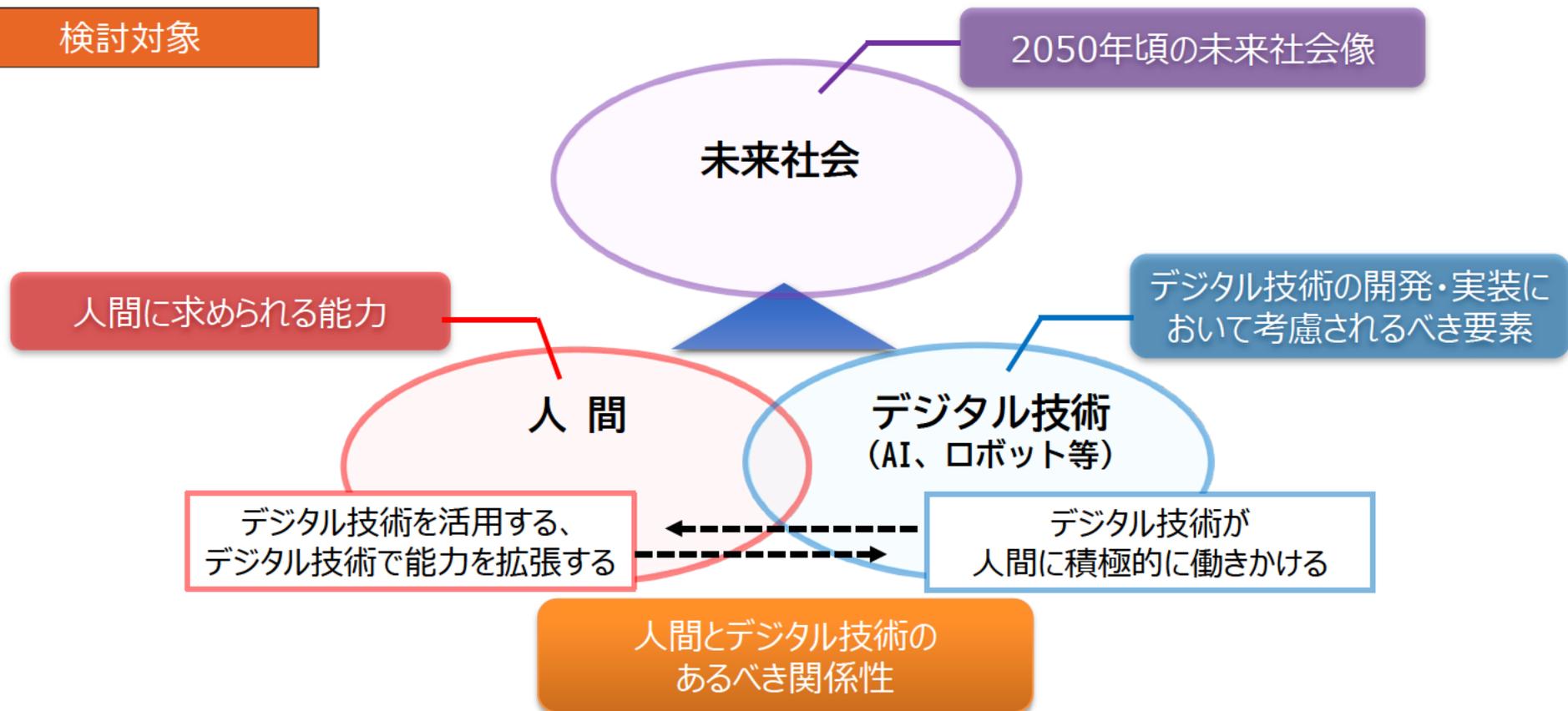
デジタル技術の開発・実装において考慮されるべき要素

デジタル技術
(AI、ロボット等)

デジタル技術を活用する、
デジタル技術で能力を拡張する

デジタル技術が
人間に積極的に働きかける

人間とデジタル技術の
あるべき関係性



- 本研究会における議論を通じて取りまとめるアウトプットとしては、次のようなものが想定される。
- 1年目（第1サイクル）の議論において、全体について人間を起点にした議論を行う。その後、特に議論を深めるべき項目について、2年目（第2サイクル）に議論を行ってはどうか。

想定されるアウトプット

- 2050年頃までを念頭においたデジタル技術、人間、社会の未来像
 - ・AI、ロボットなど技術の活用状況
 - ・情報摂取の状況、メディアやコミュニケーションの変化
 - ・その時代の人間の価値観、地域社会の姿
- 人間とデジタル技術のあるべき関係性
 - ・デジタル技術を「信頼できる伴走者」とするための考え方の整理
 - ・安心・安全の観点から、技術に委ねてよいことと、人間が実施すべきことの峻別
 - ・個人が保有する各種データの取扱い
- 人間に求められる能力、デジタル技術の開発・実装において考慮されるべき要素
 - ・心のレジリエンスの強化
 - ・デジタル技術の力を借りて、人間のポテンシャルを引き出すことの可能性
 - ・多様性・包摂性の確保の可能性

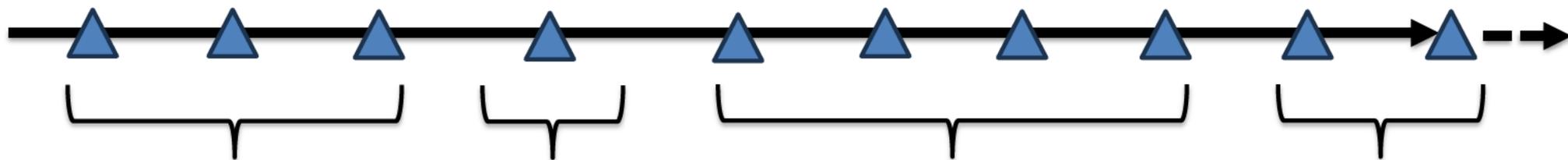
2026年

第1回(3月)
～ 第3回(5月)

第4回(6月)

第5回(7月)
～ 第8回(10月)

第9回(11月)
～ 第10回(12月)



- ・2050年に向けて今後どのようなデジタル技術を用いたサービスの展開が予想されるか
- ・2050年における人間とはどのような存在か

- ・2050年の社会像についてディスカッション

- ・2050年の社会像の構築
- ・ポジティブな社会像に進んでいくために、現在から人間とデジタル技術のそれぞれに求められる要素、能力を検討

- ・報告書骨子案
- ・報告書案 (第1サイクル)